

大空 —放哉だより—

第142号 2023.6.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106土庄町本町甲1082 ☎62-0037

今年ことしの放哉ほうさい忌いきでは『放哉書簡ほうさいしょかんと層雲そううん記事きじで—赴おもむく前まえと事情じじょうが違ちがったか—』と題だいして、朗読ろうどく・座談会ざだんかいが開催かいさいされました。

放哉ほうさいは須磨寺すまでら内の勢せいり力りよく争あらそいに巻まき込まれ大正14年3月頃たいしょうごころ、寺てらを去さることとなりました。その後ごのち、福井県小浜ふくいけんおばまの常高寺じょうこうじの寺男てらおとこになるも破産寸前はさんすんぜんの寺てらだったため、約2ヶ月ほどで京都きょうとに戻もどることになりました。そして荻原井泉水おぎわらせいせんすいの紹しょう介かい、小豆島おまじまの井上一二いのうえいちじや杉本玄々子すぎもとげんげんしの厚意こういにより、大正14年8月南郷庵みなんごあんでの生活せいかつが始はじまりました。

この経緯けいゐについて、放哉ほうさいの書簡しょかんと、「層雲そううん」に掲載けいさいされた井泉水いんすい・玄々子げんげんしの記事きじが朗読ろうどくされました。小豆島おまじまに来くることはすんなりと決きまったわけではなく、一二と玄々子げんげんしが来島らいとうを断ことわろうとしていた時とき、その返事へんじを待まちたず来きてしまった放哉ほうさい。最終的さいしゅうてきには台湾行たいわんいきも決意けついしていながらも、とりあえず、という形かたちで始はじまった生活せいかつだったのです。

また、常高寺じょうこうじが破産寸前はさんすんぜんの寺てらであったことを知らなかった放哉ほうさいにとって、それもまた「赴おもむく前まえと事情じじょうが違ちがった」という事ことだったのではないのでしょうか。



もうすぐ放哉ほうさいの入庵にゅうあん記念日きねんび〔8月20日〕です。朗読ろうどくされた書簡しょかんと記事きじは、赴おもむくまでの過程かていが分わかり易やすく構こう成せいされており、「放哉ほうさい」南郷庵友みなんごかいほうの会かい報ほう33号けいさいに掲載らいされています。記念館きねんかんにありますので、ぜひ読よんで放哉ほうさいや支援者しえんしやの気持きもちを感じかんながら入庵日にゅうあんにちを迎むかえませんか。

第22回放哉ほうさいジュニア賞しょう優ゆう秀しゅう賞しょう作品展さくひんてんが終しゅうりょう了りょうしました。子どもたちの日常にちじょうが上手うまく表ひょう現げんされていましたね。前向まへむかいで明ある句くがあったり、哲てつ学がく的てきな句くだったり、未み来らいへの希き望ぼうだったり。どんどんな状じょう況きょうだったのか、また、その気持きもちを考かんがえてみると、どんどん想そう象ぞうが膨ふくらんでいきました。展てん示じしていたのは優ゆう秀しゅう賞しょうだけでしたが、一いち覧らん冊さつ子しには各かく賞しょうの作さく品ひんを掲けい載さいしています。たたくさんの句くに触ふれることことは上じょう達たつにもつなながります。勿もちろん論ろん、ジュニア賞しょうだけだけでなく放哉ほうさいさんさんの句集くしゅう、それ以外いがいの俳人はいじんの作さく品ひんもぜひ読よんでみみてくだくださいね(*^_^*)



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	
●放哉だより発行日 □記念館休館日 □資料館休館日						

お詫び

第22回放哉ジュニア賞にて、受賞者のお名前を誤って記載しておりました。大変申し訳ございませんでした。

お詫びして訂正いたします。

- ・一覽冊子4ページ (正 入川希心 誤 入川希子)
- ・大空～放哉だより～140号